

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 創立 80 年を超える歴史を持つ泉州地域の伝統校、普通科高校として、どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前を育成する。
- 1) 他者とより良い関係を築きながら、責任を持って役割を果たす自律・自立できる「人間力」を育成する。
- 2) 基礎となる幅広い教養を身につけ、日常場面で活用できる「教養力」を育成する。
- 3) 自己と向き合い、他者と協働しながら、粘り強く課題解決を図ることができる「協働的探究力」を育成する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
- (1) 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす。
- ア IMPT（泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践を進める。
- イ DX 推進事業を活用し、ICT を活用した授業実践を進めるとともに、1 人 1 台端末の効果的な活用による授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実に努める。
- (2) 教科・探究・トータルキャリアプラン・学校行事等におけるカリキュラムマネジメントを推進し、「泉大津高校の『ねがい』」にある資質・能力（3 つのキー・コンピテンシーと 9 つのターゲット）を育成する。
- ※ 授業アンケートの平均点を令和 9 年度までに 3.25 以上にする。(R4 :3.23、R5 :3.23、R6 :3.21)
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「1 人 1 台端末を効果的に活用」の肯定的回答を令和 9 年度までに 85%以上にする。(R4 :67%、R5 :83%、R6 :84%)
- ※ 学校教育自己診断「「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動」の肯定的回答を令和 9 年度までに生徒 75%・教職員 95%以上にする。(R4 :生徒 69%・教職員 82%、R5 :生徒 70%・教職員 93%、R6 :生徒 72%・教職員 92%)
- 2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現
- 3 年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）を実行する。
- (1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する。
- ア 生徒が自立心をもって自らの生き方を考え、アンテナを広く張って自ら問いを立てられる力を持ち、課題を解決できる力を育成する。
- イ DX 推進事業を活用し、地域に根差し、地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実に取り組む。
- (2) 進路目標を達成できる学力を 3 年間で育成する。
- ア 基礎学力の定着、進路実現をめざし、学年・教科・分掌間の連携を図り、放課後や長期休業中の講習・補習を充実させ、生徒が根気よく試行錯誤しながら学びを深められるよう支援する。
- (3) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現するための組織的・計画的な進路指導を充実させる。
- ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現を支援する。
- イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、面接指導、奨学金説明会等、希望する進路に応じた支援を充実させる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「総合的探究は協働的探究力を養うのに役立つ」肯定的回答を令和 9 年度までに 80%以上にする。(R4 :72%、R5 :69%、R6 :72%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「探究や学校行事等で地域と交流している」を令和 9 年度までに 80%以上にする。(R4 :56%、R5 :58%、R6 :70%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「進路情報肯定率」を令和 9 年度までに 87%以上にする。(R4 :82%、R5 :86%、R6 :86%)
- ※ 3 年生 4 月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合を令和 9 年度に 99%以上にする。(R4 :98%、R5 :97%、R6 :99%) 就職内定率 100%を維持する。
- 3 生徒の自己有用感と人権意識の向上
- (1) 生徒の規範意識を醸成させるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
- ア 自主的に規律を守り、自律心をもって行動する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う。
- ア 行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、集団の中で主体的に他者と協働する力を育む。
- イ 1 年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力（コミュニケーション力やプレゼンテーション力）を育成し、チームで解決する力の向上を図る。
- (3) 生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する。
- ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに努める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」を令和 9 年度までに 70%以上とする。(R4 :55%、R5 :62%、R6 :66%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「学校行事への満足度」を令和 9 年度までに 87%以上とする。(文化祭/体育祭 R4 :74%/80%、R5 :85%/86%、R6 :78%/86%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会」の肯定率を令和 9 年度までに 93%以上とする。(R4 :92%、R5 :90%、R6 :92%)
- 4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上
- (1) 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりを充実させる。
- ア 教育相談体制の一層の充実にむけて、保護者や関係機関との連携を強化する。教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実させる。
- イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進めるとともに、大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。
- ウ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率を令和 9 年度までに 80%以上にする。(R4 :78%、R5 :78%、R6 :78%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」を令和 9 年度までに生徒 72%・保護者 86%以上にする。(生徒/保護者 R4 :64%/85%、R5 :70%/86%、R6 :70%/83%)
- (2) 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組みを推進する。
- ア 学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる。
- イ 教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団となるよう取り組む。
- ウ 教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と、校外研修への参加、校内共有を推進する。
- エ 教職員の多忙化解消に向けた業務の精選と校務運営の効率化を進めるとともに、「チーム学校」で教育活動を行う。
- ※ 学校教育自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」を令和 9 年度まで 75%以上にする。(R4 :76%、R5 :79%、R6 :69%)
- ※ 学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を令和 9 年度まで 85%以上を維持する。(R4 :94%、R5 :79%、R6 :85%)
- (3) 「行きたい学校」となるよう、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。
- ア HP や SNS を活用し、中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信を充実させる。
- イ 生徒体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。
- ※ 学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）を令和 9 年度まで 90%以上にする。(R4 :93%、R5 :92%、R6 :88%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【中期的目標の項目に沿って結果分析】 1 確かな学力の定着と学びの深化 ・「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている（生徒 72%⇒74% 保護者 80%⇒79% 教職員 92%⇒100%） ・情報機器の利用や体験的な授業の充実（生 74%⇒72%） ・1 人 1 台端末の活用（生 84%⇒84%） ・教育活動について日常的に話し合っている（教 95%⇒91%） ・生徒の学びに関する研究や実践を行い、情報共有している（教 87%⇒89%） → 肯定回答はほぼ前年と変わらない。教職員は IMPT が中心となり、授業や生徒をどう育てるか等について協議しているが、生徒にとって「わかる授業」をどのように作っていくか、それを「学力」にどのように結びつけていくかを継続する必要がある。 2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現 ・総合的な探究は協働的探究力を養う（生 73%⇒71%） ・進路の情報を知らせてくれる（生 86%⇒85%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある（生 90%⇒90%） ・適切な進路指導を行っている（保 87%⇒88%） ・授業以外の講習は満足できる（生 78%⇒75%） → 本校のトータルキャリアプランを遂行し生徒の進路実現に向けて取り組んだ成果が表れている。特に総合的な探究の時間では、泉大津市や大阪大学等と連携して生徒の協働的探究力を養うことができています。 3 生徒の自己有用感と人権意識の向上 ・学校行事への満足度（生 体育祭 78%⇒80% 文化祭 89%⇒85%） ・生徒会活動は活発（生 81%⇒62%） ・生徒指導への満足度（生 66%⇒63%） ・ボランティア参加生徒（生 75 人⇒130 人） ・人権について学ぶ機会がある（生 93%⇒91%） → 体育祭、文化祭などの学校行事の満足度は高い水準であるが、生徒会活動については昨年を大きく下回った。生徒会活動、生徒指導もいずれも生徒を主体的に関わらせていくことが求められる。 4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上 ・いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる（生 80%⇒84%） ・担任以外でも気軽に相談できる（生 70%⇒70%） ・適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担で、教職員が意欲的に取り組める環境にある（教 72%⇒83%） ・気軽に相談できるような職場の人間関係（教 97%⇒88%） ・経験の少ない教職員の育成（教 85%⇒79%） ・HP、SNS をよく見る（生 47%⇒56% 保 46%⇒58%） → 担任や支援委員会等を中心に生徒に寄り添った指導・支援を行っていることが数値に表れているのでこのまま継続したい。教職員については学校で担う業務を各担当任せにするのではなく、チームとして対応することが働き方改革にもつながることを意識していきたい。	【第 1 回】令和 7 年 7 月 14 日（月） ①令和 7 年度学校経営計画について ・Safety Bicycle 推進校について ・IMPT の取り組み、DX 推進事業・地域連携について ・卒業生の進路状況について ②令和 10 年度以降の入学者選抜について ③令和 8 年度使用教科書の選定について <情報共有・意見交換内容> ・Safety Bicycle 推進校として今後の取り組みについて ・（自転車は）中学校では許可制。安全講習を受けてから許可する ・ヘルメットの着用について ・中学校で頑張ったことが、高校で生かされ、それが大学進学にまでつながるような選抜であるといい ・泉大津高校がど のような生徒を求めている、どのような力を身につけていくことができる高校なのかを しっかりと発信していく必要がある。 【第 2 回】令和 7 年 12 月 11 日（木） ①令和 7 年度学校経営計画の進捗状況について ②令和 7 年度学校教育自己診断の結果について ③授業見学 <情報共有・意見交換内容> （学校教育自己診断の結果について） ・生徒の「学びたい科目を選択することができる」という項目の肯定的意見が高い。 ・現在、高卒就職者に注目が集まっており、学ぶ意欲、やりたいことを前向きにやる生徒を育てるために科目選択は大切だと思う。 ・保護者、教職員ともに PTA（活動へ）の参加が少ない。（授業見学について） ・各授業とも、知識習得だけでなく、生徒が興味を持つことができ、やる気にさせる工夫があった。 ・生徒と先生とのやりとりが楽しそうだった。先生と生徒の距離が近いと感じた。 ・高校 3 年生まで芸術の授業を選択でき、書道だけでなく美術の要素もある「書道表現」で作品制作ができ、とても良いと思った。 【第 3 回】令和 8 年 2 月 19 日（木） ①令和 7 年度学校経営計画の達成状況について ②令和 8 年度学校経営計画について <情報共有・意見交換内容> （令和 7 年度学校経営計画の達成状況） ・総合的な探究の時間（授業の中）で地域の方へのスマホ教室を実施できたのが良かった。 ・スマホ教室というのが高校生ならではの企画。地域のイベントでブース参加しても面白い。 ・スマホの使い方が多様になってきており、いろいろな展開の仕方も考えられる。何回も企画して実施していくことが大事。 ・子ども園から幼い子たちを招待して、簡単なプログラミング等の教室を開いても面白い。 ・普段の勉強とは違う、こういう場面で活躍できる生徒もいてそれが良い。 ・探究の成果発表会では、生徒同士で学年をまたいでの発表があってとても良かった。 （令和 8 年度学校経営計画について） ・職員の残業を減らす工夫をすることで、それが教員の余裕となって、その余裕が子どもたちに良い影響となって出ると良い。 ・教員のストレスチェックの結果が良いので安心した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり	(1) ア・IMPT（泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業実践にかかる研修を行い、授業改善やパフォーマンス課題の実践をチームとして進め、校内で情報共有するとともに、生徒の基礎学力の向上と定着に努める イ・DX 推進事業を活用し、ICT を活用した授業実践を進めるとともに、1 人 1 台端末の効果的な活用による授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実に努める ・好事例や教材等をチームで共有し充実を図る	(1) ア・授業充実研修 2 回以上〔3 回〕 ・授業アンケート平均 3.23 以上〔3.21〕 ・研修の振り返りの共有	(1) ア・授業充実研修 4/23, 9/4, 1/20 の計 3 回実施。授業についての悩みや考えを共有できた (○) ・授業アンケート平均前期 3.24 後期 3.20 年間平均 3.22 (△) ・各回の研修後、個人で振り返りをし、その内容を全体で共有
	(2) 「泉大津高校の『ねがい』」にある資質・能力（3 つのキー・コンピテンシーと 9 つのターゲット）を育成する	(2) ア・生徒育成の教育課程（教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など）のカリキュラムマネジメントを推進する ・教職員すべてが「泉大津のねがい・ねらい」に向かう教育活動を行う ・資質・能力の育成において、教職員それぞれが PDCA サイクルを確立し、学校全体で取り組み、IMPT・探究委員会・学年で振り返りを行う	(2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。生徒 73%以上 教職員 93%以上〔生徒 72% 教職員 92%〕	(2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。生徒 74% 教職員 100% 生徒(○)教職員 (◎) ・IMPT においては、生徒と教員の学び充実を図るための取り組みの 2 年め（3 年計画）。今年度も生徒見学期間（2 度）と全体検討会（3 度）を通じて、現状の確認と今後への見通しを立てる活動を学校全体で行った。探究委員会・学年においても、単元ごとに振り返りを行い、次年度以降への見通しを立てた
2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現	(1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する	(1) ア・「総合的な探究の時間」の内容を精査し、充実を図り、生徒の問いだて力、課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む イ・泉大津市をはじめとした地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実をめざし、DX 推進事業も活用し、近隣関係機関との連携と内容の充実を図る ・3 年間で系統立った総合探究を推進するため、効果検証を行う	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」73% 以上〔72%〕 イ・自己診断（生徒）「探究や行事等で地域と交流」75%以上〔70%〕 ・泉大津市からもご意見をいただき、探究委員会・学年主任間会議において検証する	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」71% (△) イ・自己診断（生徒）「探究や行事等で地域と交流」77% (○) ・1 年(新商品開発)、2 年(DX 地域探究)、3 年(地域探究)において、泉大津市、大阪大学等の諸機関と連携し、内容の充実をはかった。特に新規事業である DX 地域探究における「スマホ教室 in 泉大津高校」では、泉大津市市民協働課と連携を密にし、地域のデジタルデバйд解消に向けた取り組みを行うことができた。また探究成果発表会等の機会を通じて、近隣関係機関の方々からご意見をいただくなど、協働的探究力を育むことができた。
	(2) 進路目標を達成できる学力を 3 年間で育成する	(2) ア・放課後や長期休業中の講習・補習を学年全体で計画して充実を図り、生徒の参加を促す イ・大学入試を意識した外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする 英検、漢検、数検の受験者を支援する	(2) ア・自己診断（生徒）「講習満足度」75% 以上の維持〔76%〕 ・長期休業中講習参加者 20%以上〔7%〕 イ・模試や検定受験者への指導・支援の実施	(2) ア・自己診断（生徒）「講習満足度」75% (○) ・長期休業中講習参加者 14% (△) イ・模試や検定受験者の募集について E メッセージで保護者にも通知し、受験希望者へは事前事後指導を行った。数学検定 4 人、情報処理関係 27 人受験 (○)
	(3) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導	(3) ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行う イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	(3) ア・自己診断（生徒）「進路情報」肯定 85%以上の維持〔86%〕 イ・3 年 4 月段階の進路希望の実現 97%以上の維持〔99%〕、就職内定率 100%維持〔100%〕	(3) ア・自己診断（生徒）「進路情報」肯定 85% 丁寧な情報提供に努めたい (○) イ・3 年進路希望の実現 97%、就職内定率 100% (○)

府立泉大津高等学校

3 生徒の自己有用感と人権意識の向上	（１）生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制の充実	（１） ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援を実施する ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携し体験的な交通安全講習会を実施する ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みを、外部と連携して実施する （２） ア・体育祭、文化祭を生徒会が主体的に運営できるよう支援するとともに、生徒全体が主体的に活動できる行事にする ・部活動加入率を上げ、楽しさを発信し、部活動の活性化を図る ・学習環境の大切さを生徒に伝え、生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって学校全体で取り組む ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る	（１） ア・年間遅刻件数 2000 件以下の維持〔1880 件〕 ・体験的交通安全講習会 1 回以上〔2 回〕 ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施 1 回以上〔1 回〕 ・自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」67%以上〔66%〕 （２） ア・自己診断（生徒）「生徒会活動は活発」70%以上の維持〔81%〕 ・自己診断（生徒）「行事の満足度」体育祭・文化祭 85%以上の維持〔78・88%〕 ・1 年生の部活動加入率 50%以上〔43%〕 ・自己診断（教職員）「部活動の活性化について工夫」65%以上の維持〔69%〕 ・小・中学校との交流を 5 クラブ、15 回以上〔4 クラブ、24 回〕 ・自己診断（生徒）「清掃活動を積極的に行う」80%以上〔79%〕 ・ボランティア参加生徒 5 事業、50 名以上の維持〔7 事業、75 名〕 イ・自己診断（生徒）「高校に入ってからあいさつするようになった」を 80%以上の維持〔80%〕	（１） ア・年間遅刻件数 1920 件（○） ・体験的交通安全講習 3 回（5/13, 9/11, 1/15）（◎） ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施 1 回（7/17）（○） ・自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」63%（△） （２） ア・自己診断（生徒）「生徒会活動は活発」大きく減少し 62%（△） ・自己診断（生徒）「行事の満足度」体育祭 80%、文化祭 85%（△） ・1 年生の部活動加入率 53%（○） ・自己診断（教職員）「部活動の活性化について工夫」80%（◎） ・小・中学校との交流 6 クラブ、31 回継続していきたい（◎） ・自己診断（生徒）「清掃活動を積極的に行う」79%（○） ・ボランティア参加生徒 10 事業、130 名 1 年 51 名、2 年 43 名、3 年 36 名 映画祭イベント、市民茶会、音楽イベント、泉大津街中万博など（◎） イ・自己診断（生徒）「高校に入ってからあいさつするようになった」80%（○）生徒会役員の生徒などのあいさつ運動の効果が出ている
	（３）生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する	（３） ア・いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに向けて、人権学習を充実させる ・生徒の心に響く人権講演会を企画する イ・地域連携をとおして、多様性を理解し、尊重しながら、様々な人と共生できる力を身に着け、地域に貢献できる人材を育成する	（３） ア・自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」90%以上の維持〔92%〕 ・人権講演会 1 回以上〔1 回〕 イ・自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会ある」80%以上の維持〔80%〕	（３） ア・自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」91%（○） ・人権講演会 1 回 11/7 実施（○） ・校長より教職員研修（5/22）1 回 イ・自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会ある」82%（○）

府立泉大津高等学校

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実	(1) ア・教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、SC・SSW との相談体制を充実、定期的なケース会議を行い、保護者や福祉機関等と連携し、「チーム学校」で具体的な支援を行う ・カウンセリングマインドをもって生徒一人ひとりに寄り添い、支援とサポート体制を組織的に充実させる イ・保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める ・熱中症、感染症、交通安全、薬物乱用、防災の指導の徹底と外部専門家との連携を図る ・大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化し、教職員に徹底するとともに、生徒にも周知徹底する ・安否確認等のために緊急掲示板ブログや E メッセージを活用し、緊急時の情報発信を迅速に行う ウ・個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する (2) ア・学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる イ・教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団づくりをより一層推進する ウ・教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加を促進し、センター研修を軸にした研究授業と校内共有研修を実施する ・人権研修を充実させ、すべての教職員が、日々の教育活動における人権感覚を高め、より確かな人権意識を身につけて、教育活動を行い、いじめなどの人権侵害を許さない学校づくりに努める ・分掌や委員会等の業務において QJT を活用し、初任から 10 年めまでの育成体制を充実させる エ・教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・働き方改革としての分掌業務の精査を継続する ・教員の負担感の軽減、経験の少ない教員への支援を行い、働きやすい職場環境を整える ・学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会等との連携を密にし、チーム学校で教育活動に取り組む (3) ア・HP の充実を図るとともに、SNS によるタイムリーな発信を行い、中学校、保護者、教育関係者向けに本校の魅力を発信する イ・体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする	(1) ア・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」71%以上〔70%〕 ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」80%以上の維持〔83%〕 イ・指導に係る講習会等を 1 回以上維持〔3 回〕 ・外部専門家活用 3 件以上〔6 件〕 ・自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 80%以上の維持。〔84%〕 ・自己診断（教職員）「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」85%以上〔79%〕 ・E メッセージ登録 90%以上の維持〔98.4%〕 ウ・校内研修 2 回以上〔3 回〕 (2) ア・学年主任間会議で検証 イ・自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映」75%以上〔69%〕 ・自己診断（教職員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 75%以上〔69%〕 ウ・センター研修との連携による研究授業と協議の実施 ・自己診断（教職員）「人権意識を高める指導を行っている」85%以上〔82%〕 ・自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」80%以上〔78%〕 ・経験年数の少ない教職員の育成 85%以上の維持〔85%〕 エ・学校休業日（夏・冬期）、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施 ・自己診断（教職員）「気軽に相談できる人間関係」95%以上の維持〔97%〕 (3) ア・SNS、校長ブログでの発信を合わせて 500 回以上〔398 回〕 ・自己診断（生徒・保護者）「学校 HP をよく見る」50%以上〔生 46% 保 46%〕 イ・中学校出前授業の 1 回実施〔1 回〕 ・多彩な学校交流 3 件以上〔7 件〕 ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 90%以上〔88.3%〕	(1) ア・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」70% (○) ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」81% (○) 寄り添った指導、支援を続ける イ・指導に係る講習会等 1 回(学校保健委員会にて学校三師より)実施 (○) ・外部専門家(SSW 等)活用 8 件 (◎) ・自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 86% (◎) ・自己診断（教職員）「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」94% (◎) ・E メッセージ登録 100% (◎) ウ・校内研修(5/7,6/19,12/16) 3 回(○) (2) ア・年度初めの LHR・総合探究の調整に始まり、学校行事・学年行事や日々の各学年の予定などについて、主任がその都度連絡調整を行い、円滑に継承・充実につなげることができた。(○) イ・自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映」89% (◎) ・自己診断（教職員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 86% (◎) ウ・各種センター研修に係る研究授業は、個人で設定、または授業交流期間に設定しながら、IMPT 全体検討会の場を利用して協議を行っている (○) ・自己診断（教職員）「人権意識を高める指導を行っている」83% (△) ・自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」84% (○) ・自己診断（教職員）経験年数の少ない教職員の育成 79% (△) エ・学校休業日（夏・冬期）、定時退庁日を設定、クラブ休業日 104 日を完全実施 (○) ・自己診断（教職員）「気軽に相談できる人間関係」88% (△) (3) ア・SNS450 回、校長ブログ 175 回、計 625 回発信。広報に役立っている (◎) ・自己診断（生徒・保護者）「学校 HP をよく見る」生徒 56% 保護者 58% (◎) イ・中学校出前授業 1 回実施 (○) ・学校交流(母校訪問、大阪大学、調理専門学校等) 7 件 (◎) ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見第 1 回 92.3%、第 2 回 88.0% 平均 90.2% (○)